

資料-2

愛知の「ラーケーション」名古屋市除き導入 平日に学校休み家族で活動

(中日新聞 Web 2023年6月9日より)

ラーケーションの日導入イメージ



保護者の平日休みに合わせて子どもが学校を休み、家族で活動する機会をつくる新しい制度「ラーケーションの日」について、導入を呼びかけている県と県教委は、名古屋市を除く県内全五十三市町村が導入すると明らかにした。県立の全高校と全特別支援学校、十九市町の全小中学校がモデル事業として九月から取得できる態勢を整える。

ラーケーションの日は県独自の取り組みで、九月から本年度中に二日の休みを取得でき、欠席扱いにならない。授業を受けられなかった子どもは家庭で自習してもらおう。保護者と子どもが相談して日取りを決め、事前にメールなどで学校に届け出る。家族で旅行に出かけることもできる。来年度からは年三日に増やす。

モデル事業の実施校では、保護者への制度の周知や学校を休む子どもへの配布物など事務負担増に対応するため、各校に非常

勤の校務支援員を配置する。本年度末に保護者や子ども、教員を対象にアンケートを行い課題を検証する。

モデル事業の対象ではない小中学校では、導入すると決めて準備が整えば九月以降に始められる。このため、市町村によっては学校ごとに導入時期に差がある可能性がある。

一方、現時点で導入しない方針の名古屋市教委の担当者は「児童生徒の学習保障をどうするか」の課題や、取得できる子どもとできない子どもが混在する懸念があるため」と理由を説明した。

県は今月の県議会定例会に、事業費六億八千万円を盛り込んだ一般会計補正予算案を提案する。大村秀章知事は五日の会見で「やれるところからやってもらいたい。無理強いはしないがニーズはある。学校の先生にも取ってもらいたい」と述べた。

ラーケーションは、ラーニング（学習）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語。

（この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています）